

鎌倉楽しむ会

鎌倉の歴史と観光探訪

古刹・青蓮寺と 鎌倉山の「さくら」 を訪ねる

(集合) J R 大船駅南改札口

平成29年4月5日

青蓮寺（しょうれんじ）—鎖大師—



- 弘仁十年(819)、東国を巡^{じゆんしやく}錫^{こしやく}していた空海(弘法大師)が鎌倉の地(青蓮寺の裏山)で一七日(七日間)の護摩の秘法^{ひちしちにち}を修行していたときに、美しい天女(江ノ島の弁天様)が現れて力を貸してくれた。大師が無事に修法を終えたとき、天女は一粒の仏舍利(骨)を大師に託して池に消えた。大師は密教の法具である五鈷杵^{ごこし}に納めて一夜を過ごし、翌朝目覚めると、池に青色の美しい蓮華の花が咲きそろっていたという。青蓮寺の寺号は、その故事に因んでいる。
- また、別名「鎖大師」という

名前の由来は、本尊の木造弘法大師像(国重文)の両足の関節が、鎖でつながれているため自在に動かせるようになっているところから来ている。弘仁七年(816)高野山金剛峰寺創建にあたって、弘法大師自らが等身の像を作って、嵯峨天皇に奉献したものだと言われている。手指の爪は水晶でできている(惜しむらくは非公開である)。

- 信仰の意味としては「大師様を信仰する人と大師様」が、鎖のように強いご縁で結ばれますようにとの祈願が込められている

鎌倉山ロータリー



- ロータリー部に建つ石柱です。この石柱は関東大震災で倒壊した鶴岡八幡宮の鳥居の柱を流用したものです。菅原通済翁はここを鎌倉山開拓の起点に位置づけ、笹田方面に別荘地を切り拓いていった。

鎌倉山の喫茶店



- 鎌倉山地域には、小粋な瀟洒な喫茶店やレストランが点在し、画像はチーズケーキと挽き立て珈琲がとても美味しいtea salon 鎌倉倶楽部のものです。時間の余裕をみて、お茶と雰囲気味わってみたいと思っています。

鎌倉山教養センター



- 昭和56年に開設され、鎌倉市笹田の竹林や樹木に囲まれた閑静なところに位置しています。鎌倉市民の60才以上を対象にお互いに学び、心身ともに健康で生きがいのある豊かな毎日を過ごすため、一般教養や趣味・技芸などの各種講座の開催やサークル活動などの文化教養活動の場です。

佛行寺（ぶつぎょうじ）



- 明応4年(1495)の創建。本尊は曼荼羅。日蓮宗の古刹。佛行寺の始まりについては次のような伝があります。
- 源頼朝が治承4年石橋山で、平家打倒に立ち上がって敗れ、豪

雨のなか洞穴に身を隠していたとき、敵方であった「梶原景時」が見逃したという。その後、頼朝公が鎌倉幕府を立ち上げた時は、この景時は、頼朝公に信頼され有力な武将となった。景時の長子・源太景季も木曾義仲追討の戦で、数々の武功をたてる武将となっていた。建久10年(1199)に頼朝公が亡くなると、和田・千葉・三浦などの重臣との対立が大きくなり、同年ついには鎌倉から追放されてしまいます。景季も父・景時に従い西に去ることとなります。しかし、京都に上る途上で景季は父・景時とともに駿河で討た

れて亡くなります。

- その死を悲しんだ妻の信夫は、このあたりで自害して果てる。信夫の霊は、毎夜夫を偲んでは泣き続け、その声に胸をしめつけられた村人が、信夫の霊を慰めようと、佛性院日秀上人にお願いし、この地に庵を結んだのが始まりと伝えられている。

- 裏山の頂上には、景季の片腕が埋められていると伝えのある「源太塚」がある。

源太塚



三嶋神社



● 源頼朝が石橋山で旗上げしたときの最大のライバル「大庭景親」が再建したという古社。ご祭神は、海の神・山の神である大山祇神おおやまつみのかみです。昔は、佛行寺が別当を務めていたことから、毎年三が日には佛行寺の住職がお経を唱えるという。

夫婦池（めおといけ）公園



● 夫婦池の由来（看板より）
約330年前の江戸時代、徳川幕府の天領の頃に代官・成瀬五左衛門重治が、笛田村に灌漑用水として現在の下池を掘らせました。その後、笛田（ふえだ）・手広（てびろ）の住民により中央の塘が建設され、上下一対

の池を称して夫婦池と呼ばれています。現在では、大きい池を上池（うえいけ）、小さい池を（したいけ）と呼んでいます。

● 鎌倉市では、この森の貴重な野鳥、昆虫、草花の環境保全を第一に考え、木材、自然石など自然素材を使用して整備し、平成21年4月に「夫婦池公園」としてオープンしました。豊かな自然が残されており、ヨシの群生地、ツリフネソウ、ハンゲショウなどの貴重な植物が自生し、カワセミなども生息する場所として鎌倉でも隠れ家的公園となっています。

鎌倉山さくら道



● 常盤口交差点から鎌倉ロータリーまでの市道約3Kmに約300本の桜が植えられ、通称「さくら道」と言われている。常盤口の名は、鎌倉時代に七代執権になった北条政村の常盤亭があったとされていることからである。昭和52年（1977）の発掘調査により建物跡が確認され、貴重な遺跡として国史跡に指定。

草花屋 苔丸



● チョット不思議な雰囲気のある草花屋さん。中庭には山野草もたくさんあり、訪ねても面白い店だと思います。できるだけ見学だけでもお願いして楽しい思い出作りをしていきましょう。

榎亭（らいてい）



● 昭和3年（1928）別荘分譲開始とともに建てられた別荘だった。山門は鎌倉市西御門にあった高松寺で寛永19年（1642）に建立された物を移築し、建物は横浜市戸塚区にあった江戸時代の養蜂農家猪熊家の旧宅を、玄関は青蓮寺の玄関材料を使って建てた。昭和44年（1969）に料亭となった。平成15年に鎌倉市の「景観重要建築物」に指定された。

鎌倉山記



● さくら道の間あたりに、大きな石碑がある。碑文には鎌倉山の由来が記されている。天慶の乱から、平氏の勢いが東国に張り、平直方たいちのちかたに源頼義よりよしが婿となって源氏の東国になっていく……

ル・ミリュウ



● 建物は斜面に作られて、道路から見ると下の方にお洒落な店舗となっています。晴れていれば相模湾の海原が眺められ素晴らしい景観です。是非、思い出造りに立ち寄りてみたいと思っています。

龍口明神社（りゅうこうみょうじんしゃ）



● 欽明13年（552）五頭龍大神を祀るためお社を立てたと伝えられる。鎌倉では一番古い神社。
● ご祭神は、玉依姫命たまよりひめのみこと・五頭龍大神ごすりゅうのおおかみ
● 玉依姫命は神武天皇の母君、海神族の祖先で龍神として崇められたと伝えられる。ご神徳は縁結び・子授け・安産・交通安全・家運隆昌などです。

● 五頭龍大神は、武相鎌倉と江の島に伝わる「五頭龍と弁財天」の伝説に登場する一身五頭の龍神です。
* その昔、武蔵国と相模国の国境付近の長大な湖に五頭龍が棲んでいた。国土を荒し、暴虐を働かす人々を苦しめ、遂には津村の湊に出て子供を食べるようになった。そんなある時、天地雷鳴し大地震が国土を揺らし江の島が湧き出し、空から十五童子を従えた弁財天が降臨された。弁財天の美しさに惹かれ思いをよせた五頭龍であったが、弁財天に諫められ、その後は行いを改め、人々を助け慈悲の徳を施すようになった。その後、弁財天と誓いをなして山と化し国家安泰の神「五頭龍大神」となった。* 御神徳は国家安泰・心願成就・交通安全・縁結びです。